

[普及事項]

新技術名：多収、大莢、良食味で白毛の中晩生エダマメ新品種「あきたほのか」
(平成11～24年)

研究機関名 秋田県農業試験場野菜・花き部園芸育種・種苗担当
担当者 佐藤友博・椿信一・他1名

[要約]「あきたほのか」は、不定胚由来の培養変異系統後代を選抜して育成した品種である。9月中旬に収穫できる大莢、白毛の中晩生新品種で、県内主要品種の「錦秋」に比べ、収量が多く、香りがあり、食味が良い。

[普及対象範囲]

秋田県内のエダマメ生産者。普及予定地域は県内全域。種子の供給は秋田県内に限定しており、2014年は9haに作付けされている。今後、県内主要品種と同程度の50haに普及見込み。

[ねらい]

本県は、「あきた香り五葉」(中晩生、淡褐毛)、「あきたさやか」(中生、白毛)、「秋農試40号」(晩生、白毛)の3品種を育成しており、オリジナルで特色のある品種による差別化と、市販品種との組み合わせによる白毛の長期継続出荷が可能となった。

次の要望として生産者、指導機関からは、「あきた香り五葉」と同時期かそれ以降の白毛品種があがっている。そこで、白毛で中晩生の品種育成を図る。

[技術の内容・特徴]

1. 「あきたほのか」は1999年に「秘伝」(佐藤政行種苗)の開花約3週間目の子葉片を2,4-D40 mg/l添加のMS培地へ置床・誘導した未熟種子の不定胚から再分化して得られた株を養成、採種した後、早晩性、収量性、莢の大ききと食味を指標に、選抜・育成した品種である(図1)。
2. 6月15日播種時の開花期は7月30日、収穫期は9月16日で、「錦秋」(武蔵野種苗園)の7日後に収穫できる。主莖長、主莖節数、分枝数は「錦秋」と「秘伝」の中間で、種皮色は緑、花色は白、小葉数は3枚、莢の大ききは大莢の「錦秋」と同程度である(表1、図2)。
3. 多収の「錦秋」に比べ、可販莢収量はさらに多く、莢粒数別割合はほぼ同じである。毛じは白色で、香りがあり、食味は良い(表2)。

[成果の活用上の留意点]

1. 排水対策を十分に行う。
2. 施肥量、栽植密度は晩生種に準じる。

[具体的なデータ等]

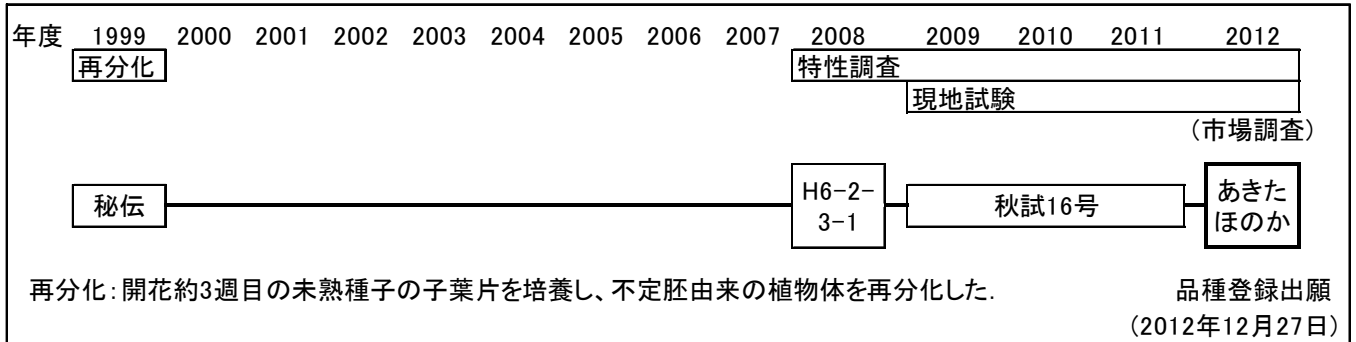


図1 「あきたほのか」の育成経過

表1 あきたほのかの特性-1 (2008~2012年、育成地、数値は5年間の平均値)

品種名	種皮色	開花日 (月/日)	花色	収穫日 (月/日)	播種から収 穫まで日数 (日)	主茎長 (cm)	主茎 節数 (節)	分枝 数 (本)	小葉 数 (枚)	若莢の大きさ	
										長さ (mm)	幅 (mm)
あきたほのか	緑	7/30	白	9/16	93	53.6	13.4	6.0	3	61.6	14.9
錦秋	淡緑	7/27	白	9/9	86	45.2	12.0	4.8	3	60.3	14.3
あきた香り五葉	黄	7/26	紫	9/9	86	41.5	10.8	3.7	5	53.9	13.4
秘伝	緑	8/9	紫	9/30	107	72.8	15.5	6.7	3	60.3	15.3

注) 6月15日播種(直播)。うね幅75~80cm、株間25~30cm。2粒まき1本立て。若莢の大きさ: 2胚珠2粒莢を調査。

表2 あきたほのかの特性-2 (2008~2012年、育成地、数値は5年間の平均値)

品種名	莢粒数別割合			くず 莢率 (%)	可販莢				毛じ 色	香り	食味	病害発生程度	
	3粒	2粒	1粒		莢数 (個/m ²)	1莢重 (g)	収量 (kg/a)	収量比 (%)				べと病	茎疫病
	(%)	(%)	(%)										
あきたほのか	7	71	22	36	343	3.5	119	132	白	有	4.6	少発	微発
錦秋	8	70	22	38	263	3.4	90	100	白	無	3.0	少発	少発
あきた香り五葉	19	61	20	42	227	2.8	64	-	淡褐	有	-	中発	中発
秘伝	4	62	34	63	181	3.8	68	-	白	有	-	微発	微発

注) 健全に生育した個体から収穫した莢を調査に供した。可販莢: 2粒/莢以上。食味: 錦秋を3(並)としたときの5段階評価。パネラーは17人。

病害発生程度目安: 微発: ~5%、少発: 5~15%、中発: 15~30%、多発: 30~50%、激発: 50%~。

毛じ	月 旬	8月	9月		10月	
		下	上	中	下	上
白毛	夕涼み	■				
	あきたさやか(県育成)		■			
	錦秋			■		
	あきたほのか(県育成)				■	
	秋農試40号(県育成)					■
	秘伝					■
淡褐毛	あきた香り五葉(県育成)		■			

白毛: 市場での青豆タイプ(レギュラー品なので年間を通じてニーズあり)

図2 「あきたほのか」導入後の県産エダマメ収穫期(8月下旬~)